

令和5年度 第2回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和5年度 第2回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和5年10月30日 午後2時00分から午後3時40分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出席者	遠藤委員(会長)、村上委員(副会長)、門崎委員、崎元委員、五十嵐委員、保尊(と)委員、丸山委員、宮沢委員、武井委員、相馬委員、山田委員、上條委員、原委員、矢花委員、宮澤委員
5	市側出席者	沖市民生活部長、高橋環境課長、百瀬環境課長補佐、巢山環境政策担当、高橋環境政策担当
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和5年11月1日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 令和5年度 水田機能維持・地力増進推進事業の実績等について
 - (2) 水路維持管理用水を活用した、あづみ野排水路における地下水涵養事業について(案)
- 4 報告事項
 - (1) 令和5年度良好な水循環・水環境創出活動推進モデル事業の応募結果について
 - (2) 企業等への「節水啓発」について
- 5 その他
 - ・次回(第3回)の審議会開催について
- 6 閉会

会議概要

- 1 協議事項
 - (1) 令和5年度 水田機能維持・地力増進推進事業の実績等について
【資料1及び委員からの事前質問に対する追加資料(※1)に基づき説明(事務局)】
- 会 長： (令和4年度の実績について)追加資料では、実施面積が108.4haとなっているのに対し、資料1では取組面積が109.72haとなっている点について、数字が異なるようだが、どのように読めばよいか。
- 事務局： (水田機能維持・地力増進推進事業は夏場の水張りとは秋ごろの麦播種がセットになった事業であるところ)資料1の数字については、昨年10月頃の数字(麦の播種を考慮せず水張りのみ完了した圃場の数字)であり、追加資料については、昨年の12月の数字(水張りのうえ、麦の播種まで完了した圃場の数字)ということで若干数字に違いが出ている。
- 副会長： 水田機能維持・地力増進推進事業について、資料1では10aあたり10,000円以内となっており、(安曇野市水環境行動計画で謳っている、令和8(2026)年度の)湛水面積の目標値は97haである。現在の取組面積は140haを超えているが、予算的には問題ないのか。また、どこまで(取組を)伸ばしていく予定なのか。
- 事務局： 今年度については、1,200万円を当初予算として確保しているが、来年度においては、今年度の増加分について(10aあたり10,000円となるよう)予算要求していると考えている。
- 副会長： もう1点、あづみ野排水路について、(検証のうえでは)3カ月で約84万m³ほど落水できた。当初の目標である年間涵養量300万m³を達成しつつある中で、この事

業を夏場にさらに増やしていくことに意味があるのか疑問に思っている。本日は回答まで求めないが、念頭に置いて資料2の説明をしてほしい。

会長： 本事業については6月から9月下旬にかけて行っているところだが、本来は冬に行いたかった事業が実施できなかったために6月から9月に行っている。

田んぼに水がある時期の涵養ではなく、今後は、あづみ野排水路を利用すれば質の高い涵養に移行できるのではないかと考える。

委員： 資料1における事業実施により期待される効果について、地力が増進したという証拠はあるのか。

事務局： 地力の増進について、水を張ることにより土地（の質）が維持され、病気や連作障害が抑えられる点は農政課にて証明されている。

※1：『安曇野市水環境基本計画の策定経緯と行動計画』中、『水田機能維持・地力促進推進事業（麦後湛水）の涵養量推移』を指す。

（2）水路維持管理揚水を活用した、あづみ野排水路における地下水涵養事業について（案）
【資料2及び委員からの事前質問に対する追加資料（※2）に基づき説明（事務局）】

委員： （今年あづみ野排水路に涵養を実施するとした場合の梓川土地改良区 小田多井水利組合としてのご意見）

今年は水がとても少なく、台風も来ていない。

梓川ダムの水の状況については、3ダムの流量の合計を水位換算した結果、昨年より30mほど下がった水位となる。通常のダムであれば1/3ほど減少している状態。

小田多井堰についても水が非常に少なく、10月24日時点の（落水箇所における）水位では、令和4年度では毎秒90リットル程度であったところ、今年は毎秒80リットル程度まで少なくなっている。さらに今後減る可能性もある。今のままでは放流に結びつく水の確保が難しい。

昨年の（あづみ野排水路への）落水量は毎秒10～20リットルと想定しているが、現在の時点でマイナスであるため、状況を見たらうで判断する形になると思う。

事務局： 9月末の降水量が昨年比4割減と聞いている。今年度については、水利組合の方にもご相談しながら、状況を見て進めていきたい。農業用水に迷惑をかけない範囲であづみ野排水路への落水をしていきたいと考えているため、ご協力をいただきたい。

委員： 資料2について、文中に「この地下水涵養により、わさび田（湧水域）における湧水量が増えた。」と記載があるが、この結果は追加資料2には記載があるか。また、当時の会議概要に当該発言を読み取れる部分がなかったと思うがなぜか。

その他、同資料中の下線部について、「地下水涵養のみ」と記載があるが、令和4年度はそれ以外に実施したのものがあるのか。

事務局： 資料2へ記載している文言については、3月13日の会議後に委員の方からご意見があったため、その発言を記載させていただいている。会議後であるため、会議概要への記載はない。

下線部の「地下水涵養のみ」の点については、令和4年度に信州大学による検証を実施したため、そのような記載をしている。

副会長： 涵養できたかどうかの確認はどのように行っているのか。

事務局： あづみ野排水路に赴き、目視にて確認しており、浸み込んだ水はすべて涵養したと解釈している。

会長： 追加資料2の検証について、榊原先生の研究室では今年は観測をやらないのか。榊原先生が独自にやるような予定もないか。

事務局： 榊原先生からは独自にやるという話は聞いていない。昨年度は、あづみ野排水路下流 500mに民間の井戸があり、そちらをお借りしていた。その井戸に水位計を設置し、採水も実施することができたが、現在その井戸にはポンプが入っており、同じように実験することが困難になっているというのが現状。

委員： 追加資料2の20/22ページについて、教えてほしい。

(ページ中、左側の資料について) 黒沢の水は重い水と評価し、下の方にある万水川は恐らく梓川のことかと思うが、こちらは軽い水と見ればよいか。また、GW4からGW3へ下の方へ変化しているのは、軽い水に変化しつつあるため、梓川の水が入ってきているという評価で良いか。

事務局： 黒沢川の水が重いというのはイオン同位体分析の中で出ている。また、図面左下にある赤あるいは緑色の四角については、小田多井堰の水をイオン同位体分析にかけたものであり、いずれにせよ、梓川の水は黒沢川の水より軽いと評価されている。

GW4からGW3が小田多井堰からの落水により、あづみ野排水路から涵養(浸透)した地下水のイオン同位体が近づいている結果は、梓川水系の水によって地下水質が変化してきていると評価する。

※2:『令和4年度 あづみの排水路における地下水涵養効果の科学的検証業務報告』を指し、※1と区別するため、本会議概要では『追加資料2』と表記しています。

2 報告事項

(1) 令和5年度良好な水循環・水環境創出活動推進モデル事業の応募結果について
【資料3に基づき説明(事務局)】

会長： 今回は残念な結果になってしまったが、来年以降も積極的に応募して頂ければ。併せて、大町市は採択となっているので、大町市の方とお会いし、どんな申請書を書いたのか入手できれば、参考になるのではないか。

委員： 資料10ページの⑥学校・教育機関について、南安曇農業高校が入っていないのはなぜか。高校のHPを拝見したが、重点目標に地域連携等がある。農業関係の話もあって、水と大いに関わりがある。

高校生を仲間に入れて、資料を作ってもらうことや、市役所まで来ていただいて一緒に活動して、そこに信州大学や松本大学も一緒にやっている、という形でアピールしていくのはいかがか。

事務局： 今後このような申請があれば、官学連携の一つとして近場の高校を含めて検討したい。

(2) 企業等への「節水啓発」について
【資料4に基づき説明(事務局)】

委員： 生活用水の節水について、一般市民の方にまずは呼び掛けて、その方々から事業者へ波及させた方が効果があるのではないか。一般の方が節水に関心を持ってから、事業者の方へ呼びかける順番でないと状況は変わらないのではないか。

事務局： これまで市民向けに出前講座や出前授業という形で、地下水の大切さ等を平成30年から周知してきた。その中で、とある市民の方から、市民に対する周知だけでなく事業者への周知もしているのか、と問われたことが本件の取り組みのきっかけとなった。今後は、市民、事業者の別なく効果的な発信手段について検討していきたい。

会 長： 福井県大野市では、各家庭が地下水に直接管をさして飲んでいいる。そこでは、長年に渡って地下水の変化を観察しており、ある地点の地下水位が一定水準を下回ると地下水警報を発している。安曇野市でも、憩いの池等においてここまで水位が下がるとまずい、という警戒ラインを設けることはできないか。

事務局： 令和2年度、3年度は台風が一度も発生せず、憩いの池が枯れかかったことがある。その際は、市のホームページへ掲載すると共に、マスコミの方に新聞等に掲載いただくようお願いした。

令和4年度は水がまだある状態だったが、今年度については降水量が少ないほか、台風も発生していないという（状況で）、地下水を上昇させる要因がない。そのため、今年度の12月後半から、憩いの池の水位は下降傾向になるのではないかと予想している。それに伴い、その下流にあるわさび田の水も枯れる可能性もあるため、市のホームページへの掲載やメディアの方に情報を提供する中で、発信していただければと考えている。

会 長： 各種データから、これ以上下がったら危ないというラインが導出できるのであればやっていただきたい。こういった情報は空振りでも良い。地下水はわさび田にかなり影響があるため、節水の依頼を現在のデータと併せて出すだけで、危ないとかかってもらえる。

このようなレッドラインを設け市民に周知することが必要ではないか。

事務局： 補足だが、安曇野市では観測井の中に閾値と監視値を測定するものがある。監視値を下回れば、下のわさび田が枯れるという数値を井戸ごとに出している。

そのため、その井戸ごとのデータを公開すると共に、監視値を下回れば枯渇あるいは水位低下の可能性があるという目安の数値を用いて、発信をしていきたいと考えている。

委 員： （資料13ページの四角で囲まれている部分について）企業の方をお願いする際にはQRコードを用いてみてはいかがか。

事務局： ご意見について、参考にさせていただく。

委 員： 地下水を絶えず流し続けているところがある。そういった状態のところには、（かけ流し状態にならないよう）指摘をしても良いのではないか。

また、昨年国営アルプスあづみの公園（堀金側）に池ができて、地下に涵養されていると思われる。こういった良い事例をモデルとして周知できないか。

事務局： 地下水を流し続けているところについては、何らかの取り組みができないかということで、今後、市の施設であれば関係する課に、市民の方であればできるだけ協力していただけるように話をしていきたいと考えている。

国営公園の件については、公園の南側、堀金の里山文化ゾーンのことだと考えるが、そちらに生物多様性を含めたビオトープのようなものがあると承知している。

そちらは山の沢水を利用した溜め池が上の方にあり、そこから国営公園の中に引き込んで、ビオトープあるいは公園内における涵養という形で進めていると思われる。こういった取り組みを国営公園で行っているということもあるので、あづみの水結や関係者ができることをマッチングさせながら、地域の発展を含めて取り組めればと考えており、現在、国営公園にはその取り組み内容をまとめているところである。

副会長： 以前から言っていることだが、お風呂の水を便所に使ったり、雨水を貯めて野菜の水やりに使ったりといった仕掛けを行っていくことで、だんだんと広がっていくようになる。

節水等については、市民の方々に取組んでいただくことで、（事務局の求める）広がりができると思うので、是非取り組んでいただければ。

委 員： 市の施設にも井戸水を流して、最終的に川へ入っているところがある。川にはいろいろな生き物もいるため、そういったことも考えて浸透マスへ流す等、考えて行

ければよいのではないか。

会 長：市の施設でも、依頼をかけやすいところから依頼をかけていくのも手だと思う。ぜひ検討いただければ。

事務局：市の施設についても、確認出来ているところと出来ていないところがあるため、そういった情報があれば提供いただき、市の職員が現場を確認したいと思う。

3 その他

(1) 次回（第3回）の審議会開催について

【次回の審議会開催予定について説明（事務局）】

<終了 15:40>

以上